

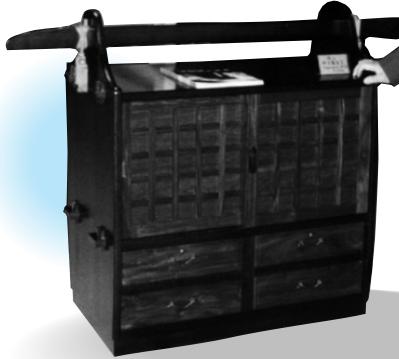
鶴田一郎の作品

顔ぶれ、作品、会場とも異色の華々しい組合わせとなつたが、古賀さんはなぜこうした展示会を企画したのだろうか。古賀さんはこう語る。「松月の社長と元々知り合いであつたこともあつたのですが、60畳敷大広間の会場を実際に見たとき、そのすばらしさに感動を覚えました。是非この会場でイベントを開きたいと思いました。」

夢追ひ人

古賀鏡台社長 古賀俊一さん

北原白秋ゆかりの柳川「松月文人館」開館記念として、「美の競演・第1回春展」が今開催中である。この展示会のプロモーターは、当会議所会員の古賀俊一さん(古賀鏡台社長)。会場も由緒あるところであるが、展示作品も指物、建具、磁器、木版画など豪華かつ異色のものになっている。入場は無料。



4月29日から5月9日までは、鶴田一郎氏作の「美人版画」の展示会となつている。最新作を含む多数の版画作品が並ぶ。即売もする。鶴田氏は、東郷青児、竹久夢二などと並び称される当代美人画の名手で、資生堂テレビCMでもおなじみの作家だ。日本女性のもつ美しさを独特のスタイルで描く。柳川や大川では愛好家の間で話題となっている。

4月1日から28日までは、西山正氏作の「青白磁」と井堂雅夫氏作「創作木版画」の展示で、西山氏は人間国宝井上萬二氏に教えを受けた名人で日本工芸会正会員。受賞歴多数。井堂氏も版画界では著名、三軌会評議員。多くの入選のほか世界中の美術館に作品が所蔵されている。NHKの大河ドラマのタイトルバックに過去3度も採用されている。

見応えある作品が並んだ。

また、5月9日までは、「榎津指物」と「組子建具」の展示も行われている。「榎津指物」は、古賀さんコダワリの純木家具で、華胥の夢博で注目を浴びた、駕籠タンスやからくりタンスなど楽しい作品だ。また、丹念に組み上げた組子建具は、木下久馬人さん(伝統11芸士、木下建具社長)の作品で、屏風、衝立、行灯、ガラス戸、テーブルなどが並んでいる。

松月には、北原白秋が、与謝野寛、木下李太郎、吉井勇らと、また死去前年の昭和17年にも多数の弟子たちと「松月」を訪れた際色紙に残した詩歌や絵、そのほか大正期の文人たちの色紙や作品が数百点保存されている。

「松月文人館」開館記念「美の競演・第1回春展」は、見応えある展示会。世界も楽しめる。



でもこれだけのメンバーをよく集められたのだ。

「ええ、もう当たつて砕けるの気持ちは交渉しました。さまざまなツテを頼つて。鶴田さんの場合は福岡の知人の紹介で、井堂さんの場合は、単身京都まで乗り込んで交渉をしました。でも、会場が多くて文人ゆかりの風情あるところだつたことが、有利に働いたと思いますよ。」古賀さんは、春展につづき、秋展も計画している。どんな展示会になるか、楽しみだ。